【4 班】「文化歴史の活かし方」

「改善提案シート」記載内容 中間とりまとめ

第2, 3回市民会議で参加者が記載した「改善提案シート」の内容を次のとおり分類した。

1　参加者からの改善提案概要

(1) 文化財の魅力の再発見

課　　題		文化財が川西の強みになっていない（今は川西を自慢できるものがない)、文化財への魅力の再発見が必要
改善提案	個人の取組	・ 文化財についての知識をたくさんつける。もっと川西の歴史や文化を知る。 ・ 「まちの宝物サポート隊」を結成する。清和源氏や多田神社など市民が川西の魅力を再発見するためのサポート隊を4班のメンバー有志で結成。
	地域の取組	・ 川西の文化や歴史を市の重要事業に位置付けてもらうよう行政に依頼する。 ・ 行政の文化財の見学会や能勢電鉄主催のハイキングなどに声をかけて参加する。 ・ 地域として文化財のツアーなどを企画する。 ・ 上記サポート隊の募集をする。
	行政の取組	・ 住友銀行が以前発刊していた漫画「川西の歴史」を学校の授業や文化時イベントなどで活用する（現在は図書館には蔵書されている)。 ・ 文化財を知るための手段を整備する（標識やアクセス、マップなど） ・ 川西の文化歴史についてキャッチコピーを作る。
	その他	・ 市名や駅名に「源氏」が付くと意識が変わるのでは（「川西源氏市」など） ・ 市民が周りから「川西はどんなところ？」と聞かれたときに何となく歴史の話ができる雰囲気ができると良いのでは（歴史マニアをたくさん作る必要はない)。

課　　題		文化・歴史の知名度が低い、イベントなどが知られていない
改善提案	個人の取組	・ 市内の史跡を歩く、体験する。 ・ 知人、友人、家族と情報交換する。
	地域の取組	・ 歴史を学ぶ場を作る。 ・ 自治会で歴史クラブを作る。

		・ サークル活動、勉強会の中で住んでる町を知る。 ・ 子どもが参加しやすい体験型イベントを行う ・ ウェブやメールを用いて地域主催のイベントを定期的に発信する（感想なども添える）。
	行政の取組	・ 小中学校で川西の歴史の授業を充実させる。 ・ 若年層が興味を示すものを優先的に伝える（漫画冊子の配布等） ・ 子どもが参加しやすい体験型イベントを行う。 ・ 市のホームページを改善して川西の歴史の情報をよりわかりやすく見せる。 ・ 近郊市町村との共同でイベントや祭りを行う。 ・ 統一感ある案内板の設置をする。

（２）文化財の活用

課　　題		文化財が活用されていない
改善提案	個人の取組	・ まずは足を運ぶ。それから考える。 ・ イベントにできるだけ参加する。 ・ 友人との会話に文化財を話題にしてみる。文化財のPRをする。
	地域の取組	・ 地域で独自に文化財のウォーキングマップを作って文化財の点を線で結ぶ。
	行政の取組	・ 点在する文化財がつながるよう、ウォーキングマップを作成する（熊野古道を参考に）。 ・ ウェブなどで歴史と併せて紹介する（これまで以上にわかりやすく） ・ 文化財を巡るバスの運行の検討。 ・ 能勢電鉄とのタイアップを進める（各駅での足湯の設置、その際に販売するタオルに源氏のストーリーをプリント、文化的な駅名が多いことを活かしたイベント、サイダー電車、割引券付き歴史巡り、市のパンフレットを電車に貼るなど）。 ・ 行政が直接何かをするよりも、企業と市民やNPOをつなぐコーディネーターの役割を担ってほしい。 ・ 博物館の新設を検討する。
	その他	・ 観光客を呼ぶよりも、市民が週末にどのように楽しめるかが重要。

課　　題	多田神社、三ツ矢記念館、加茂遺跡、勝福寺古墳などの魅力を市民が再発見できるような活用を図る

改善提案	個人の取組	・ 多田神社の由来などを知る、広める。 ・ 三ツ矢サイダー発祥の地だということをもっと周りに広める。 ・ 勝福寺古墳の整備のための寄付金を募る。
	地域の取組	・ 多田神社でコミュニティイベントの成功祈願を行う（多田神社への愛着をさらに持つ動機付けにする）。 ・ 記念塔付近の草刈りをする（アサヒ飲料の了解を得たうえで）。
	行政の取組	・ 三ツ矢記念館周辺に市の花を植えるなどしてシンボルにしていく（アンデルセン公園のイメージ）。 ・ カップヌードル記念館のある池田市と意見交換する。 ・ アサヒ飲料とビジネスモデルにならないか協議を始める（川西独自の歴史を感じる商品の開発、川西の水を使った「平野ジャパンサイダー」の復活、炭酸水を飲料用だけでなく洗顔やお風呂用での発売など）。 ・ 加茂遺跡資料館で勾玉を販売する。 ・ 加茂遺跡をみえる形にして見学できるようにする（尼崎市の田能遺跡のイメージ）。 ・ 寄付金を募って勝福寺古墳の整備をする（前方後円墳が見渡せるようにする）。
	その他	・

課　　題		源氏まつりが市全体の祭りと感じられていない
改善提案	個人の取組	・ 祭りに積極的に参加する。 ・ 子どもを祭りに参加させる。
	地域の取組	・ 各地域（自治会など）から応募を積極的に呼びかける。
	行政の取組	・ 祭りに幅広く参加できるように、出演者の人数割り当ての地域配分を工夫する。
	その他	・ 源氏まつりは地域の祭りでも良いのかもしれない。

（３）文化財の情報発信

課　　題		歴史・文化のスポットの見せ方を工夫する（場所がわかりにくい、案内が少ない）
改善提案	個人の取組	・ 道がわからず困っている人に道案内をする。
	地域の取組	・ パンフレットなどの配布方法を考える。

	行政の取組	・ 行先を表示するものが少なく小さいため改良する。 ・ 案内マップ、標識の整備。 ・ 「源氏の里」としてのインフォメーションを増やす（駅、道路沿い、史跡など）。 ・ 自販機の色を青（アサヒ）から緑（三ツ矢サイダー）に変える。 ・ イベントをホームページでこまめに発信する。
	その他	・ 文化財のことを単に伝えても魅力を感じてもらえないので、いかに「見て楽しい、おもしろい、体験できる」ような状況を作るかが大切ではないか。

課　　題		転入してきた人への情報提供に力を入れる（川西は転入者が多いのでそこをターゲットにする）
改善提案	個人の取組	・ イベントなどの情報を取れる手段を探す。
	地域の取組	・ 自治会の中に転入者がいた場合は積極的に声を掛け、必要に応じて誘う。
	行政の取組	・ 転入時に市役所の窓口に来た際に、文化イベントの案内や川西の歴史の副読本などを渡す。
	その他	・ 転入した時に川西の歴史文化に触れることで、その良さや魅力を感じる人が増えるのではないか。

（４）川西の文化・愛着

課　　題		市民が川西を大事に思えているか不安
改善提案	個人の取組	・ 川西を学び、愛着を持ち、文化を知り、まちづくりに参加する。 ・ 参加型の事業やプロジェクトを自分で創る。
	地域の取組	・ 地域として楽しみを作りながら文化や自然をつないでいく。
	行政の取組	・ 住民参加型プロジェクトのコーディネートをする。 ・ 川西の文化とは何か？　のようなことを市民と一緒に考える場を作る（今回の市民会議のような場）。
	その他	・ 「文化＝歴史」ではなく、文化は生活や楽しみの要素が大きいので、これと組み合わせなければ文化と歴史はつながらない。

課　　題	歩きたばこやゴミのポイ捨てなどについて考え直す

改善提案	個人の取組	・ 歩きたばこをする人が多く、他の人が嫌がる行為でもあるのでやめるよう呼びかけを行う。 ・ 町にゴミのポイ捨てや雑草の生えているところが多いのでボランティア活動に参加する。
	地域の取組	・ 歩きたばこによって被害を受ける人がいるかもしれないことを地域としても意識する。 ・ 「ゴミの不法投棄禁止」の看板が色あせて見えにくいので補修する。
	行政の取組	・ 歩きたばこ禁止のルール（条例）を作ることの検討。 ・ 歩きたばこをやめるための啓発活動の継続。 ・ まちの清掃などについて有償ボランティアとしてお願いすることはできないか。
	その他	